

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために…

“子どもや孫たちが帰ってくるまちづくり”を目指して
栃木県議会議員

さいとう淳一郎街頭演説レター

第 5 号 (再版)

発行日 平成 23 年 9 月 1 日

発行者 栃木県議会議員

さいとう淳一郎

〒329-2136 矢板市東町 3006-3

塩谷地区ならではの地域医療を実現しましょう！

現在の地域医療は医療技術が高度化・専門化する一方で、がんや心疾患などの生活習慣病の増加や高齢社会への備え、そして矢板市にとっては塩谷総合病院の経営移譲問題が大きな衝撃を与えたように、新臨床研修制度導入による地域におけるお医者さんの不足など、様々な問題を抱えています。

しかし引き続き、全ての県民の皆さんが質の高い医療を効率的に受けられるような体制を整備していかななくてはなりません。

栃木県では各地域の医療ニーズに対応するために、県内を5つの区域に分けた「(二次)保健医療圏」を設定しています。県ではこの「保健医療圏」ごとに医療政策を推進するとともに、国の経済交付金も「保健医療圏」ごとに支出されることが多くなりました。

矢板市を含む塩谷地区は、那須地区、南那須地区とともに、大田原日赤病院を拠点病院とする「県北保健医療圏」に含まれています。しかし、この「県北保健医療圏」は県の面積の実に3分の1以上を占めています。そこで矢板市内から大田原日赤に救急搬送するのに時間がかかるように、また矢板市民の皆さんが、日ごろ大田原日赤に通院するのが大変な状況にあります。

そこで『さいとう淳一郎』は、矢板にある国際医療福祉大学塩谷病院、塩谷病院にもっと大きな役割を与えて、その機能を強化した上で、塩谷病院を拠点とした「塩谷保健医療圏」を新たにつくって、地元の塩谷郡市医師会のお医者さんのお力もお借りしながら、塩谷地区ならではのキメ細かい地域医療を推進していくことを御提案します。

また、こうした取組の中で、現在塩谷地区では現在空白になっている平日夜の初期救急体制も、何とか整備していくべきだと考えています。

【写真】

塩谷地域の地域医療充実のために、機能強化が期待される国際医療福祉大学塩谷病院

